

不二製油株式会社 2025 年度第 1 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2025 年 8 月 8 日（金） 16:00～17:00		
・出席者	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. 植物性油脂事業が通期業績予想に対して既に進捗率が高いが、第 1 四半期時点で計画を上回る推移か。

A. チョコレート用油脂 CBE の販売数量が前年同期比で 118%の増加、販売価格も上昇したことから CBE による業績寄与は想定以上に推移している。下期の原材料価格の動向やチョコレート市場の動向が不透明であり、リスクとして認識しているが、現時点ではカカオ価格は高水準な推移が続いており、また CBE の需要減速等は見られず、今後も CBE の堅調な販売を見込んでいる。

Q. 今期の植物性油脂事業と業務用チョコレート事業は一時的な原料差益の剥落による減益を計画しているが、現時点での今後の見込みは。

A. 第 1 四半期では、植物性油脂事業は原料差益が継続しているが、業務用チョコレート事業はカカオ価格上昇に伴い原材料価格が上昇しており、原料差益が剥落する傾向にあり、第 2 四半期も同じ傾向を予想している。今後も原材料価格の上昇の影響により、原料差益による業績寄与は昨年ほどは見込めないが、販売価格の適正化を進める。

Q. ブラマーのカカオ特殊要因について、計画比での評価と今後の見込みは。

A. 第 1 四半期は、期初想定よりもカカオ特殊要因による損失が少ない結果となった。販売に紐づいて発生するコストが第 2 四半期以降にずれたことが主な要因。今後の見込みについては、コストの発生が後ろ倒しになっていることから、第 2 四半期にもカカオ特殊要因の損失が発生する見込みであるが、価格転嫁が進んでいることから損失の幅は縮小し、下期には期初計画通りカカオ特殊要因の解消を見込んでいる。

Q. ブラマーのカカオ特殊要因除く実質事業利益が赤字だが、今後の見込みは。

A. 第 1 四半期は比較的閑散期であることに加え、米国チョコレート市場の低迷による販売数量の減少が主要因であるが、期初想定からは大きな乖離はない。製品別の販売動向としては、ピュアチョコレートやカカオ加工製品の販売が減少した一方で、コンパウンドチョコレートは増加しており、拡販を進めている CBE コンパウンドチョコレートの販売実績も上がってきていることから、引き続きコンパウンドチョコレートへの注力を進めていく。

Q. 営業キャッシュフローの改善が進んでいないが、今後の改善の見込みは。

A. 第 1 四半期には運転資金の高止まりにより改善が遅れる結果となった。今後の見込みは、第 2 四半期は第 1 四半期と同水準を想定しており、下期からの改善を見込んでいる。

以上